

■町上水道水源への影響について

意見1 備中沢の下流には5つの町上水道水源があるが、水源地の上流に処分場をつくるべきではない。

回答 上水道水源については、調査を行った結果、備中沢の地下水と上水道の地下水とは別の地下水と考えられ、安全性が確保できると考えている。

■住民合意について

意見2 圧倒的な住民の反対があっても知事はあくまでも処分場を推進するのか。

回答 住民の反対に対しては、粘り強く、ご理解していただけるように対応していきたい。
また、いろいろな意見の人が一緒になって処分場の先進地を見ていただき、議論していただくことが良いと思っている。

■風評被害について

意見3 町は広重美術館を中心としたまちづくりを進めており、処分場候補地の小口地区には馬頭温泉郷や小砂焼等の観光施設がある。今後、処分場ができた場合、観光面のイメージダウンが懸念されるが、どのように対応していくのか。

回答 環境が馬頭町の振興のキーワードになると考えており、例えば、環境学習施設をつくることにより観光にも良い影響が出るのではないかと考えている。全力で馬頭町のまちづくりに協力し、観光にも良い影響があるように支援していきたい。

意見4 馬頭町は農林業が基幹産業である。仮に処分場ができ、ダイオキシン等による農産物の風評被害が発生した場合、どのように対処するのか。

回答 最終処分場周辺の環境モニタリングを実施して、環境に影響が出ていないことを確認し、その結果を積極的に公表するなどして風評被害が発生しないよう最大の努力をしていきたい。
万々がー、風評被害が発生した場合には速やかに原因を究明して、その対応策も検討していきたい。

■周辺地域の整備について

意見5 県が処分場を設置した場合、周辺地域の土地改良、道路等の基盤整備に支援していただけるのか。

回答 土地改良については、地元申請が原則であるので地元から要望があれば、前向きに検討させていただきたい。また、道路整備については、搬入道路や周辺道路をどのように整備するかについて、地元の方と相談しながら決めていきたい。

(平成16年3月発行)

グリーン・ライフ
Green Life

快適で安全な暮らしのために

ばとろ



表紙写真:堤に咲く福寿草

トピック

去る1月21日に開催しました「馬頭最終処分場に関する町民と知事の意見交換会」の概要をお知らせします。

意見交換会における知事説明要旨



1 適地性判断のための環境アセスメント実施までの経過

- 平成2年に馬頭町北沢地内における産業廃棄物の不法投棄問題が発覚し、10年間にわたって地元や町において、周辺環境への影響を防ぐための対策が真剣に協議されました。
平成12年6月、町から県に対して不法投棄物撤去のための県営最終処分場建設（候補地：備中沢）の要請がなされました。
- 知事就任以来、地域の理解が得られる形で問題解決に当たるため慎重に検討した結果、県が町の要請に基づき処分場を設置し、不法投棄物を適正に処理することが、最も現実的で安全な方法であるとの結論に至りました。

2 適地性判断のための環境アセスメント実施の趣旨

- そのためには、備中沢において将来にわたって安全で環境保全に配慮した最終処分場の設置が可能かどうか判断することが必要との考えから適地性判断のための環境アセスメントを実施しました。
- 環境アセスメントは一般的には事業実施の決定後に行われます。
適地性判断のための環境アセスメントは、事業を実施するかどうか決定する前に、最終処分場の安全性が十分確保できるのか、生活環境や自然環境は保全できるのかなど、候補地の適地性判断の材料を得るため、全国でも先進的な取り組みとして実施しました。



3 適地性判断のための環境アセスメントの実施経過

(1) 環境調査

- 約1年半をかけ、候補地とその周辺において、地形・地質や動植物などの自然環境、大気・水質などの生活環境について詳細に調査しました。
調査結果は、専門家の検証をいただき、調査の節目ごとに町民の皆様にお知らせしてまいりました。
- 地域の皆様からは動植物などに関する貴重な情報をいただきました。ボーリング調査や井戸水調査などに多くの方々からご協力をいただき、御礼を申し上げます。

(2) 予測・評価

- 処分場が設置された場合の候補地や周辺の環境に対する影響を予測し、影響がある場合の対応の必要性や対策の可能性について、各方面から検討し評価しました。
- 環境影響評価書は、案の段階から町民の皆様にご説明してご意見をいただき、さらに、専門家の意見を踏まえて再度検討した上で、昨年12月に決定し、町民の皆様にご説明しました。

4 適地性判断のための環境アセスメントの結果と適地性判断

(1) 環境アセスメントの結果

- 候補地には、活断層や不安定な地形、軟弱な地盤等は存在しません。
地質は凝灰岩類であって安定した地盤です。
- 処分場の放流水や運搬車両の排ガス等は、環境基準を達成できることが確認されました。
- 騒音などの生活環境や動植物などの自然環境の一部については保全対策が必要ですが、処分場配置案・搬入道路案の一部見直しや植物の移植を行うことなどによって、対応は十分可能であると判断しました。
- 処分場による町上水道水源に対する影響は、上水道水源や那珂川の過去のデータなども調査した結果、候補地と町上水道水源とは別な地下水であり影響はないと考えられます。

(2) 技術面、経済面からの検討結果

- モデル的な管理型最終処分場として設定した処分場の規模や廃棄物に触れた水が外に漏れることがないようにする遮水構造、水をきれいにする浸出水処理施設、大雨などによる災害を防止するための防災調整池など、基本的条件と安全対策について技術面、経済面から検討した結果、対応は十分可能であると判断しました。

(3) 適地性の判断

- こうした結果から、「候補地は管理型最終処分場の設置を回避しなければならない重要な要素は存在せず、処分場が設置可能な場所である。」と判断しました。

5 最終処分場の安全確保と全国モデルとなる最終処分場の設置

(1) 「多重安全システム」の考え方

- 最終処分場の安全性を確保していくためには、「幾重にも安全対策を組み合わせる多重安全システム」という考え方が最も重要です。これは、ハード面はもとよりソフト面も含めて、地域の皆様から信頼と安心をいただくためのシステムです。

■ ハード面

- 最も大切なことは、「仮に一部の機能が失われても、それを補う他の機能によって安全が十分確保できる」という考え方に基づくことです。
- 例えば、廃棄物に触れた水が外に漏れることがないように、遮水工は遮水シートを2重とし、シートの上は保護土で覆って破損を防ぎ、シートの下は遮水性の高いベントナイト混合土を敷く構造とします。2重シートの間には漏水を検知できるシステムを設置し、常時、漏水の有無を監視します。処分場周辺においてもモニタリングを行い、環境への影響を確認するなどして、何重にも安全対策を講じます。

■ ソフト面

- 例えば、受け入れる廃棄物は、事前に十分に審査し、受け入れる際には事前審査した物と同じものか確認し、埋立時には「その場で広げて検査する」など何度も検査を行います。
- 地域の皆様にご安心いただくためには、地元の方々が施設の管理・運営状況を自らの目で直接見ることができる仕組みが必要です。
住民の目で、処分場が安全に運営されていることを、実際に確認していただくことにより、一層のご安心をいただけると考えています。
- こうした住民監視制度を、仮に馬頭町に最終処分場を設置することになった場合には皆様とご相談しながら取り入れてまいります。

(2) 全国モデルとなる最終処分場の設置

- ハード、ソフト、両面にわたる多重安全システムの考え方にに基づき、全国モデルとなる安全で安心いただける処分場を設置していきたいと考えています。

6 県の将来にわたる保証

- 以上のような安全性を追求した最終処分場であっても、万々がー、何らかの事故が発生した場合は、県が責任を持って将来にわたり保証していきたいと考えています。

7 生活環境への影響の回避・低減の対策

- 最終処分場の設置・運営により、生活環境などへの影響を回避、低減するための対策をとることは当然です。
例えば、

(1) 交通安全の確保

- 専用搬入路の整備や道路の拡張、歩道の設置など、道路状況に応じた整備を行います。
処分場が終了したあとの利用も考慮した道路整備も行いたいと考えています。

(2) 廃棄物の飛散

- 埋立にあたって即日覆土や散水を行い、ばいじんなどの飛散しやすいものは加湿、セメント固化したものを埋め立て、一定の風速以上になった場合には作業を中止するなどの対策により、廃棄物の飛散を十分防止できると考えています。

(3) 風評被害

- 処分場の設置によって風評被害が発生したというようなことは「あってはならない」ことです。
- そのため、風評被害の発生を積極的に防止するために処分場周辺の環境モニタリング調査を実施し安全性をPRし、万が一にも風評被害が発生した場合には、すみやかに発生原因を究明するなど対応策を十分検討します。

8 自然環境の保全、「環境」のまちづくり

(1) 自然環境の保全

- 備中沢の自然環境についても、専門家や町民の皆様からご意見をいただきながら保全対策を講じます。

(2) 馬頭町の特長と将来

- 馬頭町には、農産物直売所、馬頭温泉郷、広重美術館、鮎やな、キャンプ場などがあり、「いわむらかずお絵本の丘美術館」も馬頭町の自然が絵本の題材となっており、いわば「エコミュージアム」ともいえるものです。
- 仮に、最終処分場を設置することになった場合には、単に「処分場を設置し、北沢地区の不法投棄物を撤去して終わり」ということではなく、「恵まれた環境の中で育まれるエコタウン」というような町の将来を考えています。

(3) 「環境学習施設」の設置、「環境のまちづくり」の推進と町の魅力や活力のアップ

- 例えば、馬頭町に「環境学習施設」を設置し、県内外から多くの方々が馬頭町を訪れ「豊かな自然の中で、人と環境の関わりについて、学び、体験し、交流する場」にしたいと考えています。
- さらに、風力や太陽光、バイオマスなどの自然エネルギーを積極的に導入し、「環境のまちづくり」が推進されれば、素晴らしいエコタウンができると期待しています。
- 馬頭町の観光地や農林水産業は、恵まれた自然環境と歴史・文化のもとで育まれてきました。こうした町の特質を活かし、「環境」をキーワードにして、馬頭町の魅力と活力を一層高めていくことができると考えています。

(4) 馬頭町のこれからの「まちづくり」への県の取り組み

- 最終処分場周辺地域の整備はもちろん、馬頭町のこれからの「まちづくり」についても、町民の皆様とご相談しながら取り組んでいきます。

